

スマートライフ

人生の最後を飾る費用

葬儀、納骨して支払うための事前の知識

葬儀は人生最後の大イベント。

しかし表だって話にくく、その費用の実態はつかみにくい。

納骨はどうするのか、その後の法要は……。

自分のため、残される家族のために事前に把握しておこう。

「次の星に行く送別会なんだから、ロケットみたいにお棺を立ててほしいくらいだよ」。東京都に住む遠藤和夫さん（仮名、72）は、自分が送られる葬儀の計画を笑いながら説明する。

悲しむためのイベントではなく、好きなポップスやバラードの歌があふれた葬儀にしたい。友人が訪れやすいように駅近くの式場で開きたい。そのために費用はかけられるが、逆に余分なものは徹底して省く。祭壇は設けず戒名もいらぬ。「設備は印象に残らなくていいから、内容がユニークな葬式だったと帰りに思わせれば大成功だ」が遠藤さんの希望。費用も「みっともなくないスリレの儀」で、僧侶に払うお布施を除き 118 万円の予算だ。

費用を4分類して整理

表だって話にくく、葬儀費用の実態はつかみにくい。日本消費者協会の調べによると、葬儀一式の費用は全国平均で 231 万円という。地域により風習が異なり、四国が 149 万 5000 円と最も低く、最も高い東北は 282 万 5000 円だ。

葬儀と一口に言おうが、何にどれだけの費用がかかるかはあまり知られていない。「葬儀サポートセンター」としてインターネットで費用相談や葬儀

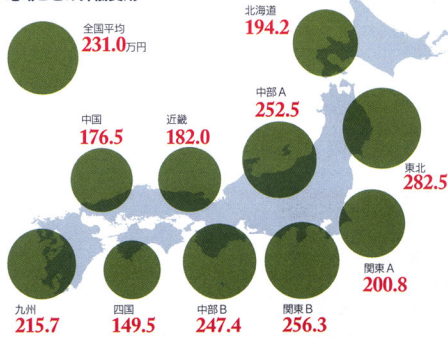
社の紹介を手がけるアクティンディ（東京・品川）の佐藤清美さんは「費用は4分類して考えると理解しやすい」と助言する（右の表を参照）。

まず式典の運営費。内外装やソフトの費用で、葬儀社に直接支払う。具体的にはます、最も高価で中心となる祭壇がある。白木なのか花を生かすのか、大きさはなど選択数は様々で、一般の葬儀でも 20 万円から 90 万円くらいまで差がある。

棺（ひつぎ）も木か布で覆うのかで値段が変わる。供え物の種類をどの程度もろえるかも思案のしどころ。ちょうちんや看板を用意すれば、そのたびに 1 万円単位で費用が増す。葬儀の規模が大きくなれば葬儀社の人数も増え、人件費がかさむ。式場に十分な設備がなければ、音楽や照明機器、幕などを持ち込む必要がある。記帳ノートなどこまごました品も意外に多い。

2 番目の分類は式場利用料や車両費で、いわばハード面の費用。都市部では式場を持たない葬儀社が多い。式場は通常、結婚、民営、寺院の順に価格が上ががる。結婚式と異なる予約はできないので、当日の混雑状況により流動的だが 2 日間で 30 万円くらいが目安。病室から安置所、式場から火葬場などへ遺体を運ぶのに自動車も必要とな

地域ごとの葬儀費用



日本消費者協会調べ。葬儀費用は葬儀・飲食・お布施を含む。関東Aは茨城・栃木・群馬・千葉。関東Bは東京・埼玉・神奈川。中部Aは新潟・富山・石川・福井。中部Bは山梨・長野・岐阜・静岡。愛知の各都府県対象。

る。距離や時間にもよるが、霊きゅう車は 4 万円ほど。火葬料も公営か民営かで差がある。

3 番目は飲食やお返しに費用だ。通夜振る舞いや告別式の食事、人数を見込むのが難しく余分にかりがち。香典を受け取ったときのその場のお返しや香典返しも欠かせない。最近では日のお返しを省く代わりに、式場で 3000 円ほどのお返しを渡すケースが都心部では増えている。

最後は僧侶など宗教者へのお礼。つまりお布施で、これが最も難しい。寺との縁が薄い場合は、通常の戒名込みで都心部では 30 万円が相場のような

葬儀社が寺を紹介する場合は、葬儀社が相場を決めているという。檀家の場合は寺とのかかわりの深さからお布施の目安が決まるので、一般論が通用しない。

戒名は「寺への貢献」によって位が上がる。貢献は境内の掃除でもよいし、おカネでもよい。そのため位の戒名を得るにはより高いお布施を納める。「院」がつくと 50 万円ほどお布施が増えるのが目安。立派な戒名をもらうのはよいが、「戒名は先祖や家族とのバランスで決めることが多い」と佐藤さん。あまり立派だと、残された人にもいづれ負担がかかる。

納骨はどうする？

永代供養墓や散骨も選択肢

先祖代々の墓が遺族の近くにあれば問題ないが、墓がない場合や遠方の場合は、新たな悩みが持ち上がる。

墓の購入は家と同じように土地の使用権を買い、その上に建屋に相当する墓石を置く。当然、土地にかかる費用は場所によって大きな差がある。東京都の公営墓地でも青山霊園（港区）は 1 平方メートルの永代使用料が 302 万 7000 円もする一方で、八柱霊園（千葉県松戸市）は 19 万円と 15 倍の差がある。

民間の霊園では、石材会社が開発を手がけているケースが多い。大きな霊園では複数の石材会社で区分けて販

売している。墓石と区画（永代使用料）はセットで、霊園内の区画や墓石の好みによって石材会社を選ぶ。

寺院の墓地は一般には公営・民営より高い。必ずしも土地価格に連動するわけではなく、寺院の運営方針で決まるため、ある種の「言い値」となる。また「永代使用料は安くても、檀家になった後から寄進を求められることもある」（アクティンディの佐藤さん）。僧侶が代替わりすると方針が一変する可能性もあるという。

墓石の価格も石の種類や大きさ、加工や設置場所によって大きく異なるが、1 平方メートルの墓で 100 万円が1つの

目安。墓地と合わせれば数百万円の出費となる。大きな買い物だけにローンも選べる。墓石会社が提携するクレジット会社だけでなく、銀行のフリーローンも利用できるのでは金利を比べたい。寺までおカネをかけたも、少子化で墓を守る人が減りつつある。後継者がいない場合、遺族に代わり寺が見守る永代供養墓も広がっている。

永代供養墓では、最初からもしくは数年たつとほかの人と一緒に納骨し、寺が供養を続ける。東京都港区の大神寺では位牌（いはい）よりや大ききめの個人墓に遺骨を納め、7 回忌を終えると合祀（ごうし）墓に移す。一般的な戒名込みで 20 万円で、あらかじめ合祀までの期間を延ばすと 1 年当たり 1 万 8000 円の追加費用がかかる。「墓があっても後継者がいない人が、先祖の遺骨ごと永代供養墓に移ることもある」（副住職の中村雄吉さん）

いっそのこと墓をつくらず、野山での散骨などを望む人も増えている。遺骨をどこにまいてよいのかという問題も生じるなか、鳥根県志摩市では無人島が丸ごと散骨用の島となった。火葬場併設の斎場を運営する戸田葬祭場（東京・板橋）のグループ会社が、カズラ島という無人島を個人から購入し、木道や浮桟橋を整備した。随訪の住民しか訪れず費用に差があり、一般の人で遺族が散骨する場合は 28 万円だ。

カズラ島の散骨料金

故人の属性	散骨料金
施主による散骨	
海上刑の現・旧国民	20 万円
随訪地の現・旧住民	22 万円
一般	28 万円

委託による散骨

海上刑の現・旧国民	16 万円
随訪地の現・旧住民	18 万円
一般	24 万円

生前予約すると散骨料金は70%になる

葬儀費用の主な明細

葬儀社にかかる費用		価格	僧侶の用具		経机、イス、障り物など	5万円
祭壇	生け花 2間 (約3.6メートル)開口	35万円	ちようちん	家名付き	2万円	
	3間開口	55万円		家名家紋付き	2.5万円	
	4間開口	90万円		受付備品、全葬帳など (100人用)	1.5万円	
	白木 8尺 (約2.4メートル)4段	20万円	事務用品	簡易放送用具	1.5万円	
	12尺4段	35万円	音響・照明	祭壇照明	5000円	
ひつぎ	15尺4段	50万円	音響	案内用2枚	8000円	
	木棺	6.5万円	礼状	案内用2枚	1万円	
位牌 (いはい)	布棺	8.5万円	看帳	式場	1.8万円	
		5000円		司会、案内 (2名2日)	8万円	
写真		2.8万円	人件費	火葬場案内	2万円	
供物	果物2種	1.2万円	役所届け出	火葬許可書の代行	5000円	
	果物3種	2万円				



飲食・返礼品 1人あたり

通夜料理	2500~4000円
告別式料理	3000~5000円
返礼品	後返し (別途香典返しを送る場合) 500~1000円 即日返し (香典返しを送らない場合) 3000~5000円

お布施 一般的なお戒名(僧士・僧女)込みで30万円が目安
戒名の位が高くなるのにあわせ、10万~30万円ほど増やす

浄土宗の場合 (僧侶の位)

男性	女性
院居士 (いんじ)	院大姉 (いんたいし)
院信士 (いんしんじ)	院信女 (いんしんによ)
居士	大姉
信士	信女

費用はメモリアルホール葬儀サポートセンターを参考にした首都圏の目安。
葬儀社宛に電話でご質問ください

施設や車にかかる費用

葬儀会場	公営	6万~10万円	
	民間	20万~35万円	
	寺院	幅は広く一般的に50万~60万円	
火葬料	民間	4万~8000円 (東京一般的なケース)	
火葬場休憩室料		2万円	
収容容器		1万~4万円	
車両費	霊柩車 (葬儀から安葬まで)	2.8万円	
	霊きょう車 (式場から火葬場)	3.8万円	
	マイクロバス (火葬場への同行)	4.2万円	

通夜 八時~九時
告別式 十時~二時
葬儀式場

最近ではインターネットを通じて個別サービスの価格を示す葬儀社が増えている。各要素ごとに料金を提示するメモリアル (東京・板橋) では「顧客の8割が家族が亡くなる前に相談し、合い見積もりも取る」(田中勝信社長)という。葬儀費用に透明性を求める傾向は着実に強まっている。

それでも悩ましいのは、結局、適正水準が判然としないこと。例えば3ランクを提示されれば、真ん中のクラスを選びがち。事前準備する時間と気持ちの余裕があれば、葬儀社が手がけた葬儀の写真を見たり、式次第を確認したりしてイメージを固めたい。費用だ

けなく運営ノウハウに事前に目を配れば、より美のある葬儀になる。亡くなった後に故人が望んだ葬儀が分かって、遺体が運ばれた式場によっては音楽すらかけられない場合もある。

予算に応じ内容を決める

「予算から内容を決める。そのために事前準備が大切」と話すのは、司会業から葬儀の相談・家族葬の式場運営へと手を広げるチャプター・ツー (東京・江東) の三村麻子社長。通常は中心となる祭壇を決めてから周辺の項目を加えるため、費用は膨らみがち。逆に、必ずかかる火葬料や設備費、お布

施を固め、残った金額から祭壇を決める方法を勧める。祭壇に回す費用が少なくなると、葬儀社によっては供花を祭壇に組み込んで立派に見せてくれる。

「料理を立派にして、にぎやかにしてほしい。それ以外の希望なんでも」。東京都の重川和子さん (仮名、67) は150万円の予算のなかで、まず料理を重視する。夫のときにはフグ料理まで計画する。そこから逆算して設備を決め、予算内に収めるつもりだ。

もちろん、葬儀に事前に準備する人はまだ少ない。肉親を失った精神的ショックや看病疲れで、冷静に判断するのも難しい。そのため、葬儀社の勧め

のままになる人は多い。

「ファミユ」の名称で全国に葬儀サービスのフランチャイズチェーンを展開するエポック・ジャパン (東京・港) は、首都圏では42万~126万円の5つのセットを提供する。伊藤健枝取締役は「選基準を持たない人に細かい内容を示しても混乱させるだけ。内容を明示したセットの方が分かりやすい」という。セット方は理解しやすく便利なのは確か。ただ、葬儀社によっては費用を膨らませる手法もなる。元気がうちに内容を比べておけば、いざという時に適切なセットを選びやすい。



遺族がいなくても寺が代わりに見守る永代供養費も (東京都港区の八幡寺)

3回忌・7回忌も忘れずに 負担を巡り遺族でもめない工夫

チャプター・ツーの三村さんは「葬儀に見込んだ費用のうち、実際に使うのは8割ほどに抑え、残りは『おじいちゃんおばあちゃん基金』として残して」と勧める。「基金」は葬儀後にかかる費用、例えば3回忌や7回忌の際の飲食費やお布施、参加者の交通費や宿泊費に充てる。遠方に暮らしていれば、泊まりがけで法要を訪れるだけでも大きな負担だ。故人からの援助があれば、気兼ねなく参加できるし、費用負担を巡るめ事も少なくなる。

三村さんの知るケースでは、故人のために盛大な葬儀と立派なお戒名、豪華な墓を建てて遺産を使い、残りは遺族で分割相続したところ、年忌法要を

開くたびに負担が問題になっている家族があるという。最初から法要まで見越し、葬儀費用のムクを削って基金に回しておけば、こうした問題は避けられたかもしれない。

相続税がかかるほど遺産があるケースはごく一部だが、葬儀費用は相続の際の課税対象額から控除できることも知っておこう。葬儀費用に含まれる主な内容は別表のとおりだ。

葬儀では領収書を受け取りにくいケースもある。ただ、お布施も「非課税」でも収入印紙は張らないが、求められれば受け取った証しは渡す (大信寺の中村副住職) という。ファイナンシャルプランナーの汀光一さんは「参

葬儀費用は相続財産から控除できる

葬儀費用に含まれるもの

本葬の費用
通夜の費用
葬儀会場の費用
通夜告別式の飲食費
宗教者へのお布施
遺体の運搬費用
葬儀費用に含まれないもの
香典の返戻費用
泉地の買入れ費用
仏具代※
初七日などの法要費用
遺体解葬費用

※は没後に購入した仏具代は葬儀費用に含まれない。生前に買ったものは、投資目的ではなく日常使うものなら相続税の課税対象外になる

列者の車や台所での出費なども控えておきたい」とアドバイスする。領収書が発行されないものも、記録があれば費用と認められやすい。

西山太郎が担当した。グラフィックス・米村実生